

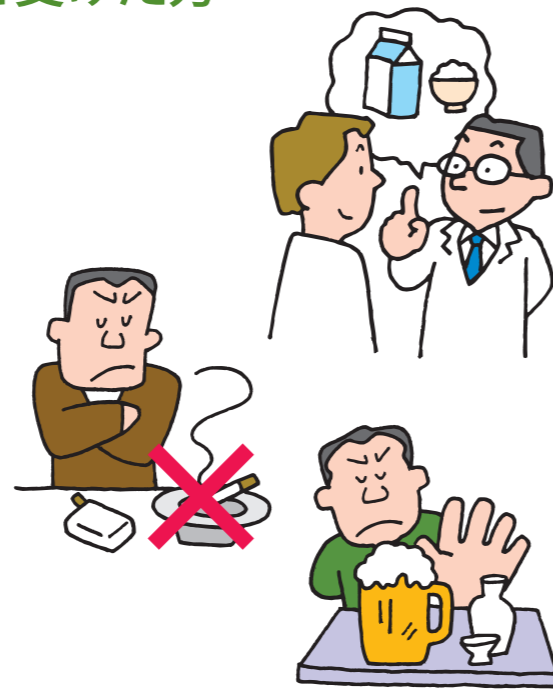
検査後の注意



- 目がチラチラしたり、物が二重に見えたり、フラつくことがあります。車の運転・機械の操作などは避けてください。
- のどが渇く場合があります。
- お腹が張ったり、痛みのある方はトイレに行ったり、右下にして横になったり腹ばいになったりして空気を出すと楽になります。
- 検査後の体調の変化(出血・腹痛・アレルギー症状など)や心配なことがあれば、お申し出ください。

大腸内視鏡治療を受けた方へ

- ポリープを切除した場所には電気熱による傷(焼灼潰瘍)ができます。傷が治るのには2~3週間かかります。
- 一定期間、消化の悪い物や炭酸飲料のように腸管を刺激するような飲み物は避けてください。
* 1日分の食事がセットになった腸管への刺激が少ない術後専用の食事“ポリエクトミール”を利用すれば、食事をあれこれ心配する必要がありません。
- タバコやお酒、刺激物・香辛料なども傷口から出血が生じる危険性がありますので一定期間は禁止です。
- 遠方への外出・出張・激しい運動および入浴の制限をする場合があります。



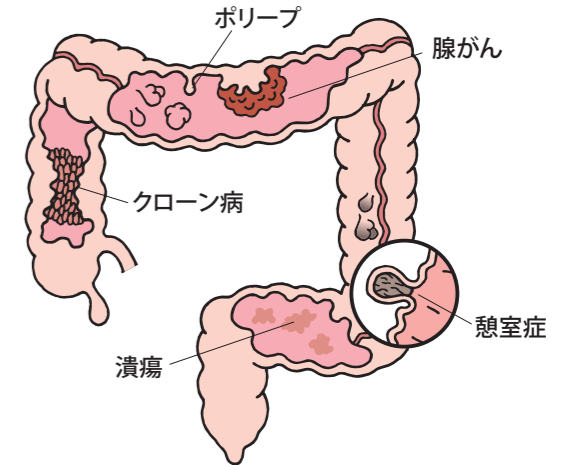
* 検査についてわからないことや心配なことがありましたら、以下にお問い合わせください。



大腸内視鏡検査・治療を受けられる方へ

大腸内視鏡検査って？

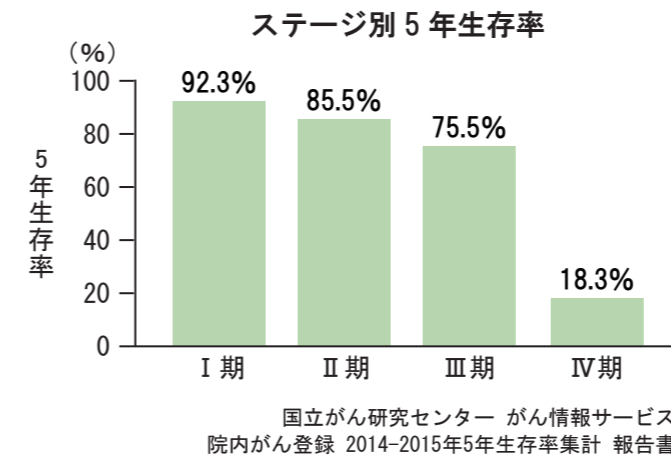
肛門から内視鏡を挿入して、盲腸までの大腸と小腸の一部を直接観察し、病変を見つけるために行います。もし病変が見つければ、良性の病変とがんを区別するため、一部をとって顕微鏡で調べる検査(生検)を行います。早期がんなら検査と同時に治療(手術)することもできます。



- 内視鏡検査は患部を直接観察することができ、さまざまな病変※1を発見できます。
※1 潰瘍・ただれ・ポリープ・炎症・がん など
- 平坦な病変でも色をつけることにより発見できます。

検査を受けなかったら？

病気の発見が遅れ、治療が遅れたり適切な治療が受けられず、手遅れになることがあります。大腸がんは早期に発見すればほとんど治ります。



がんの進行度をあらわす病期(ステージ)分類

- ・ I 期 (ステージ I)
がんが固有筋層までにとどまる。
- ・ II 期 (ステージ II)
がんが固有筋層を越えて浸潤している。
- ・ III 期 (ステージ III)
リンパ節への転移がある。
- ・ IV 期 (ステージ IV)
ほかの臓器に転移している。

検査前の血液検査

検査の前に偶発症や合併症の予防のため、血液検査を行い以下のことを調べます。

貧血でないか・血がとまりやすいか・感染症(肝炎・梅毒など)にかかっていないか※2

※2 感染症が陽性でもガイドラインに沿って機器を洗浄・消毒しているので、問題なく検査を受けていただけます。



偶発症・合併症

細心の注意をはらって検査を行いますが、まれに以下のような偶発症や合併症を生じることがあります。

前処置による合併症

大腸に狭いところがあるときに、下剤や腸管洗浄液を飲むことにより、ごくまれに腸閉塞症状が現れることがあります。この場合、強い腹痛や何回も嘔吐したりします。

検査時に用いる薬や注射の副作用

不安や緊張を和らげる薬(鎮静剤)や痛みを和らげる薬(鎮痛剤)により次のような症状が現れることがあります。

悪心・嘔吐・口渇・物忘れ・目がちらちらする・頻脈・尿閉

内視鏡による偶発症^{※3}

内視鏡を大腸内に挿入しますので、腸管をこすったり、腸が伸びたりして次のような偶発症を生じることがあります。

穿孔(腸に穴があくこと)・出血

※3 大腸内視鏡検査(観察のみ:生検含む)及び治療に伴う偶発症の発生頻度

	検査	ポリペクトミー	EMR	ESD
発生頻度	0.011%	0.390%	0.564%	3.356%
偶発症例	438人	986人	2,500人	549人
死亡例	16	0	4	1

日本消化器内視鏡学会医療安全委員会報告 2008~2012年

* 万一合併症が生じた場合は、それに対して迅速に対応します。

◆◆ 次のような方はお申し出ください ◆◆

- 心臓病およびその疑いのある方、高血圧症・糖尿病の方
…必要であれば、検査前に心電図をとります。
- 血を固まりにくくしたり、サラサラにする薬(ワーファリンなど)や心臓のお薬を飲んでいる方
…検査前の1週間、休薬が必要ですので、かかりつけ医に相談して、許可をもらって休薬してください。
- 常用している薬がある方 …休薬が必要な場合があります。
- 緑内障・前立腺肥大症・甲状腺異常・喘息・アレルギー体質の方

検査までの流れ(前処置)

※処方された下剤は医師の指示通り使用してください。

検査前日

消化の良いものを食べてください。

検査当日

朝食は食べないでください。

のどが渇いたり空腹感があれば、水分はとっていただいてもかまいません。

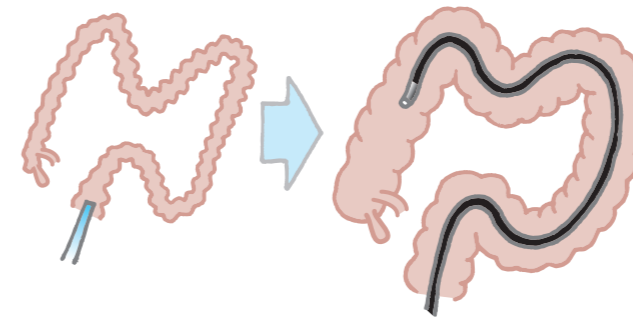
来院後

検査の前に大腸の運動を止める注射をします。

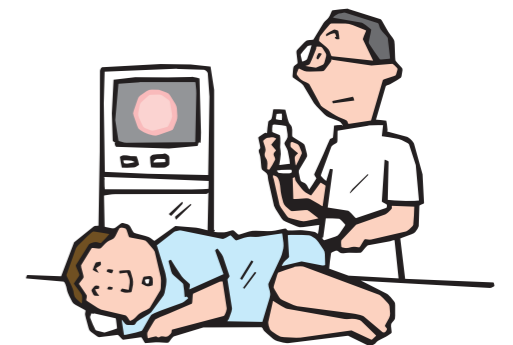
また、必要に応じて、不安や緊張を和らげる薬(鎮静剤)や痛みを和らげる薬(鎮痛剤)を用いることがあります。

検査

ベッドで横になった姿勢で、肛門から内視鏡を挿入して、腸管の中を盲腸まで観察します。



大腸に空気を入れて、腸管を広げながら内視鏡を挿入します。



検査時間は10~15分です。
ただし、過去に腹部手術をしたことのある人で、腸管癒着があると多少時間がかかります。

症状により、以下のような検査を行うことがあります。

①病変を見つけやすくするために、青い色素液をまくことがあります。

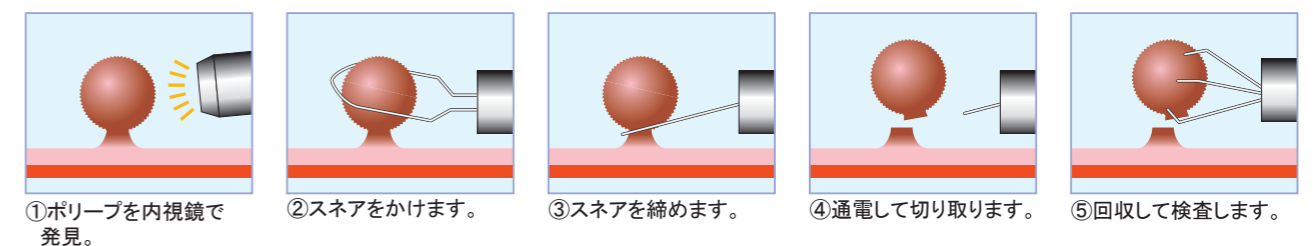
尿・便が青っぽくなる場合があります。

②病変を見つけたときに、良性か悪性か調べるために、病変から2~3mm大の粘膜を採取(生検)することがあります。



早期大腸がん

ポリープをポリペクトミーという手技で検査中に治療してしまうことも可能です。



検査後10~20分ほど待合室でお休みいただきます。